



厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業
(障害者政策総合研究事業(精神障害分野)))班会議
2016.10.6. 東京

外部支援者による中長期的な 支援者支援のあり方に関する研究

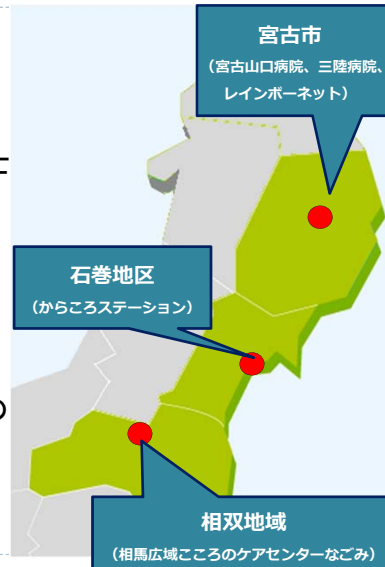
国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 成人精神保健研究部
災害等支援研究室長 鈴木友理子

目的

- ▶ 東日本大震災の被災地における現地支援者を対象に長期的な外部支援についてのインタビュー調査を行い、質的に分析し、望ましい外部支援の在り方を検討する。
- ▶ 1) 支援内容
- ▶ 2) 被災地の外部から支援者が入ることの意義、困難
- ▶ 3) 震災4年後の状況

方法

- ▶ 3機関、10名の現地支援者
 - ▶ 男性8名、女性2名、
 - ▶ 30歳代1名、40歳代5名、50歳代4名
 - ▶ 看護職4名、心理職3名、精神保健福祉士2名、その他2名(複数該当あり)
- ▶ 個別対面式のインタビュー調査
 1. 震災後の3年間程度の各地域の状況
 2. 外部支援として望ましい支援活動
 3. 外部から支援者が入ること自体のもつ意義、困難
 4. 震災4年後の現状についてインタビューガイドに基づいて尋ねた。



▶ 3

結果1：外部からの支援内容

- ▶ 1)役に立った支援
 - ▶ 研修コンサルテーション
 - ▶ 同行訪問
 - ▶ 他地域の見学
 - ▶ 医師の見立て
 - ▶ 外来の診療の手伝い
 - ▶ 支援者へのカウンセリング
- ▶ 2)あればよかったと思う支援
 - ▶ 法人やクリニックの立ち上げの支援
 - ▶ 活動の記録のまとめ
 - ▶ 支援者のための相談窓口
 - ▶ 病気でない人への予防的な関わり方

▶ 4

結果2：外部支援者が入ることについて

- ▶ 1) 意義
 - ▶ 新しい情報、長期的な視点、刺激、フラットな視点、相談しやすさ、風化させない

- ▶ 2) 困難
 - ▶ 専門性や職種へのこだわり、外部支援の集中、継続性のなさ、気遣い、地域のことが分からない、配慮に欠ける言動、調査
 - ▶ →「中長期における外部支援者の心得」作成

▶ 5

中長期における外部支援者の心得 (1)

- ▶ **被災地で浮かない身なりを**
対人支援に相応しい身なりかどうか、今一度考えてみましょう(例:華美な服装、茶髪など)。被災地では、依然つらい状況にある人に会うかもしれません。自分の雰囲気や相手がどのような印象を与えるか、想像してみましょう。

- ▶
- ▶ **現地に入る前に、地域の情報を**
現地の地理や言葉がわからないと、現地支援者の付き添いが必要となり、外部支援者だけではなかなか有効な支援ができません。事前に知識を得ておくことで対応できることもあります。地域の事情を知らずに助言したり、理想を語ったりしても、現地の人びとの心に響きません。

▶ 6

中長期における外部支援者の心得 (2)

▶ 外部支援が集中しないように

外部支援者が多数いることが必ずしも良かったともいえない、という声もあります。自分たちだけでなく、全国の外部支援者が同じようなことをしているのではないか(例:同じような研修の申し出など)、と想像してみましょう。被災地では断りづらく、無理をして受け入れることもあります。外部でできるだけ調整することで、被災地の負担を減らすことができます。

▶ 専門性、職種にこだわらない

- ▶ 順応性のある、我を出さない支援者は現地で協働しやすいです。専門性や職業アイデンティティにこだわった支援者のために仕事を調整するのは、大変な負担になります。被災地では、精神保健の専門性を持っている「なんでも屋」のつもりで動きましょう。自分の専門性が活かされるような仕事がタイミングよくあるとは限りません。専門外のケースへの対応や、生活支援、事務処理など、もしかしたら自分の不得手なことを求められることもあります。

▶ 7

中長期における外部支援者の心得 (3)

▶ 継続的な支援を

不定期で代わる代わる支援に入る状況では現地支援者、また住民と関係性を作ることは難しいです。細くても息の長い支援のほうが、現地支援者としてはありがたいです。

▶ 気遣いがあることを忘れずに

現地支援者は、外部支援者に対して気を遣ってしまいます。時には、仕事がないことに不満を言われ、あえて仕事を調整するようなことさえあります。中長期にはあまり変化がないことを前提にして、求めに応じて支援をしたり、被災地の現状を知ったり、風化させないことに努めてくれる支援者をありがたく思います。

▶ 勝手に調査をしない

地元では、アンケート等の調査は、一つ一つは大変ではなくても、数が多く辟易しています。外部支援者が、第三者的な立場で支援活動を評価する場合には、関係者へのヒアリングをして、現地支援者にフィードバックする形などが良いかもしれません。

結果3：震災4年後の状況

- ▶ 資金の減少・財源確保
- ▶ 外部支援者との関係性の維持
- ▶ 新しいスタッフへの引き継ぎ

- ▶ 地域様相・ニーズの変化
- ▶ 事業体の提供するサービスの変化・拡充
- ▶ 活動主体の模索

- ▶ 地域におけるネットワーク・連携の強化
- ▶ 地域における障害理解・リカバリーの促進

▶ 9

まとめ

- ▶ 東日本大震災の被災地における現地支援者を対象に、中長期における外部支援についてのヒアリングを行い、1) 支援内容、2) 被災地の外部から支援者が入ることの意義、困難などを整理し、3) 震災4年後の状況を記述した。
- ▶ これらの結果から、外部支援者の心得集を作成した。

- ▶ 鈴木友理子, 深澤舞子, 種田綾乃: 外部支援者による中長期的な支援者支援のあり方に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業(障害者政策総合研究事業(精神障害分野))) 「災害時の精神保健医療に関する研究(研究代表者: 金 吉晴)」平成27年度分担研究報告書. pp.119-156, 2016.

▶ 10

